

ほのぼの

第6号

平成16年
3月

発行

神戸市須磨区戎町1-2-3
TEL 078-732-5209
信行寺門信徒会



報恩講法要

報恩講の模様

十二月二十日と二十一日に、報恩講が修行されました。

この報恩講は、宗祖親鸞聖人の往生の日をご縁として、その生涯を偲ばせていただき、そのご苦勞を通じて阿彌陀如来のお救いをいただくことを、あらためて心に深く味わせていただく法要です。

二十日は、小雪まじりの厳しい寒さでしたが、本堂は満席となり、住職をはじめ、ご子息（三名）と、お孫さんはおつとめ（正信偈）のあと、お参りの方々にごあいさつされました。法話にさきだち、住職から念仏奉仕団に二十回参加された萬董子さんに表彰記念品が贈呈され、大きな拍手で賞讃されました。住職の法話のあと、全員で「おとき」をいただき散会しました。

二十一日には、天岸浄円先生のご法話がありました。報恩講の「御絵伝」が親鸞聖人のご生涯を四幅の絵伝として伝えられたことと、その見方について教わり感銘しました。



いらん

おせつかいは 住職 米田睦雄
邪魔になる

むかし、播州に平兵衛という無我にご法義を喜んでい
る信者がいました。

ある時、平兵衛さんに

「平兵衛さん、お前さんのご信心の領解を聞かしてくだ
さらんか」

とたずねた人がいました。

「親様が、コノママ助けてやろうとおっしゃるで、間違
いなく参らせてくださると喜んでおります」

と自分の領解述べると、すぐに

「あなたは、コノママといわれるけれど、タノムものを
助けるというお慈悲で、タノメと仰せられているのに、
お前さんの領解は、肝心のタノムが抜けているから、往
生できないヨ」

と横やりをいれました。すると

「ア、そうですか。タノムが足らないので往生はできま
せんか」

と答える平兵衛さん。

「それはあたりまえでしょ」

とたずねた人が答えると、平兵衛さんは、さも嬉しそう
な顔をして

「お慈悲の親様じゃで、足らぬものがあつたら、足して
よいようにして、助けてくださります。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」

と喜んでおられたそうです。

味のある逸話ですネ。人間は言葉をもっています。い
うまでもなく、言葉は、人間生活に非常に大切なものです
が、これがために理屈っぽくなり、言葉の概念にこだわ
りすぎて、事実を見失ってしまう危険性ももっています。

平兵衛さんは、「タノムが抜けている」と非難されて
いましたが、深く如来をタノミ、如来にお任せした人で
す。足りないから加えようとするのも、余分なものがある
から減じようとするのも、ハカライです。これを自力
といいます。



浄土真宗でいう自力は、努力を
いうのではなく、如来様にたいす
る「いらんおせつかい」のことで
す。如来様の邪魔をしないように
気をつけましょう。



『ご正忌報恩講』に参拝して

川口昭次

一月九日から十六日までの間、ご本山で『ご正忌報恩講』が勤まりました。

この内の十三日に、当山のご住職に『御堂布教』と『特別講演』の特命があり、有志の二十九名でご本山に参拝し、聴聞する機会を得ました。

「涙を越えて……」と言う講題で、満堂の参拝者は大いに感銘深く受け止めさせて戴きました。

ご法話の要旨は、

『先の阪神淡路大震災によって、自坊も全焼して、門徒の方が二十八名も犠牲者が出た事、そして、復興再建した本堂の前に、震災犠牲者の「追悼記念碑」を建立して、そこに「涙を越えて」と書いた事、……などのお話をされ、「あらゆる悲しみや苦しみを乗り越えて、お浄土まで如来さまに抱かれて、お念仏を申して生き抜いて行け」との、親鸞聖人のお教えを、しっかりと受け止めさせて頂きましょう』と、お示しされました。

午後からは、再び総御堂での『連夜法要』に引き続いて、ご住職による『御堂布教』の聴聞をいたしました。



質問コーナー

問い お通夜や葬式、法事などにお参りした

ときの態度についておたずねします。



答え お通夜、葬式、法事などにお参りするときは、少

なくとも、次のことに気を付けましょう。

① お寺さんの読経中は私語を慎みましょう。

一番厳粛な場面でベチャクチャしゃべるのは、仏様はもちろんのこと、故人、ご家族にたいしても非礼きわまりないことです。しかも、これは、ひるがえって自分を粗末にしていることになるのです。

② 読経中に自分の生きている原点を確かめましょう。

故人の在りし日の面影を偲びながら、日ごろ忙しさの中で見失っている自分自身の有り様を見つめ直し、内省することも大事なことです。

③ お経の本やお数珠を粗末に扱わないようにしましょう。

なにげなしに、畳など人の歩くところにお数珠を直接置いているのを見かけることがありますが、仏さまに手を合わすたいせつな用具です。

始めませんか 健康体操を！

私達は、月二回（第二・第四木曜日）、ヨガの呼吸法を取り入れた健康体操を、一昨年の始めからしております。メンバーは現在十四名です。場所は信行寺の二階の『礼拝堂』です。

ヨガと言えば、なんだか難しい・厳しいというイメージがありますが、この体操はヨガの基本動作を取り入れた易しい心身体操で、約一時間半にわたって身体の各部（日頃余り使わない筋肉）のストレッチを行ないます。

これまで腰痛（椎間板ヘルニア）や肩凝りに悩まされていた方が、体操を始めてからはすっかり良くなり、気分的にもリラックスして、今では病院通いを全くしなくなつたとのことでした。

この「同好会」は、信行寺の門信徒会の人だけではなく、どなたでも参加する事が出来ます。（男性の方も歓迎）

お問合せ先は、坊守さん又は、

川口・谷藤まで…。

文ふ々ふ欄らん

長井輝葉

◎ 未生流方雲会

◎ 趣味としての花暦五十年

今回は珍しい流儀花を紹介します。

この花形は「七曲ひちまきよく」
と言い、草木の特性の曲技を活用して、考案された流儀花です。

一日一瓶を活けるとして、一週間を要します。完成したときの気分は最高です。

(自宅にて飾る)

[下の写真をご覧下さい]



「七曲ひちまきよく」

本願寺全国児童生徒作品展

特選受賞作品をご紹介します。

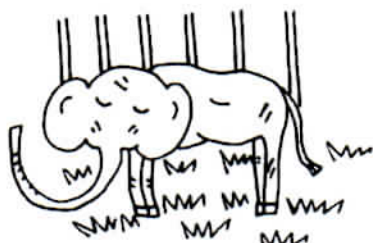
かわいそうなぞう

上野動物園のかたすみ、
「かわいそうなぞう」の主人
人公トッキーとワンリーが
ねむっています。

このお話は、むかし、
日本がアメリカとせんそうを
していたころにほんとう
にあったお話です。

もし、動物園にばくだんが
おとされて、おりがこわさ
れて、おそろしい動物た
ちがあばれたら、たいへ
んなので動物をたくさん
ころしてしまいました。

「どちらにもたれながら、
やせこけたはなをたくのばして、
ばんざいのげいとうをし
たまましんでしまいました。」



私が、一番心にのこっている場面です。げいとうをし
たらえさがもらえると、思つて一生けんめいがんばつて力
つきてしまつたぞうたち。一年生の時から何回も読んで
きました。そのときは、「かわいそうだな」と思つただ
けでよくわからなかつたけれど、読んでいるうちになみ
だがこぼれてきました。ぞうを子どものようにかわいがつ
ていたおじさんが、しなさなければいけなかつたくやし
さがよくわかりました。今までかわいがつてきた動物た
ちが、人間のしている戦争のせいでころされるなんて。
せんそうはみんなをふこうにするものです。

おじさんががまんできなくなつてえさや水をあげた
気もち、私にもよくわかります。私だつてきつと同じこ
とをするでしょう。園長さんもほかの人もだまつて知ら
んぷりをしていただけれど、みんなも同じ気もちだつた
ですね。

でも、しんだぞうたちのいぶくろに何も入つていなか
たのはなぜだろう。おじさんのねがいはとどかなかつた
のかな。もうまにあわなかつたんだね。食べる元気がき

えていたのかもしれない。

「むねがはりさけるほどつらい」

と言っていたおじさん。私はこんなにかなししいことは、今までにけいけんがないけれど、きっとむねがビリビリにやぶれるくらいつらくて、くるしかつたんだなと思いました。

私が動物園で見たぞうは、目をくりくりさせて二頭よりそいながらとても元気そうでした。

人間も動物も、地きゆう上にすんでいるすべてのものは、心ばいしないでしあわせにくらせるよの中になってほしいと思いました。

国府台女子学院小学部 小学二年生 鈴木亜里紗



仏教用語豆辞典

【正念場】

新聞には「国会、正念場を迎える」「外交交渉の正念場だ」テレビでは「マラソンの正念場にさしかかりました」「金メダルの正念場です」など正念場はいろいろな分野で用いられています。

しかし、正念場として、最も有名なものは、歌舞伎、浄瑠璃で、一曲一場の大事な見せ場、主人公がその役の本領を発揮する最も重要な場面を指します。

これから転じて、ここぞという大事な場面や局面をいうようになりました。

お釈迦さまが初めての説法するとき、八正道という、仏教の実践方法を示されましたが、その一つが「正念で」邪念を離れて仏教を思い念ずることをいいます。

また、『末灯鈔』には「正念といふは本仏誓願の信樂定まるをいふなり」と、本願を疑いなく信ずる心の定まったことを正念といっています。

正念場とは、そんな大事な場をいうのです。

辻本 敬順著より